

# 商店街

## がまちづくり



テーマ「40年後のぎんなん通」。発寒東小学校3年池田明白香さん(上)、新出亜海さん(下)の作品。

商店街によるまちづくり活動が活発化している。その活動の形はそれぞれ違って、各商店街に共通する思いは「もっと魅力あるまちに」ということ。

大型店の出店や長引く不況など、商店街を取り巻く環境は依然厳しい。そんな中、なぜまちづくり活動なのか。今月は西区で行われている事例を見ながら、各商店街のまちづくりに懸ける思いを追いかける。

### CASE 1 アトム通貨 導入

「廃食油回収に協力してくれた子どもにアトム通貨をあげるでしょ。そうするとすごく喜んでくれるんだよね。1馬力1円。10馬力集めても10円にしかならない。でも、アトム通貨には額面以上の馬力があるんだ。未来を作るといふ馬力がね」。こう話すのは発寒北商店街振興組合の土屋日出男理事長だ。



アトム通貨とは、東京の高田馬場で生まれた地域通貨(単位:馬力)。ごみ拾いや落とし物を届けてもらったときなど「ありがとう」の言葉と共に相手に渡す。人と人とのつながりを実感させるとともに、地域経済にも貢献しようという試み。もらった人は次の「ありがとう」で人に渡すことも、加盟店でお金として使うこともできる。

### 「人」づくり 未来への投資

昨年8月、発寒北商店街がアトム通貨を導入したのはその理念に共感したからだ。魅力的なまちをつくる上で大切なのは「人をつくること」と考える土屋氏。地域の子どもたちが発寒北で育つことを強く意識し、この土地への愛着を持つことがまちづくりのスタートだと語る。

交通網が発達し、人や物の移動が活発化して便利になった反面、地域性が失われてきた。「郊外の大形店に高齢者が車で

行くことは難しい。放置すると、本格的な高齢社会を迎える今後、どんどん住みづらいまちになっていく」と危機感を覚えた。このため、小中学校の児童生徒とスノーキャンドル作りやトイレ掃除を一緒にするなど、未来を担う子どもたちに「地域」を意識してもらえような活動を行っている。30年、40年先を見据えた壮大なまちづくり計画。これを実現するのが商店街の役目だと自負している。



土屋理事長

「商店街ってのはいい面があってね。町内会やPTAみたいに管轄区域や世代を気にする必要がないから動きやすいんだ。自分たちの住むまちを良くしたいという意見に反対する人はいないんだけど、できる人がなかなかいない。だからそれをするのが商店街。各世代、各地域をまたに掛けても問題ないからね」。

上の2枚の絵は発寒東小学校の児童が「40年後のぎんなん通」をテーマに描いたものだ。将来、この絵のようにぎんなん通がにぎやかに栄えることができるように、発寒北商店街の取り組みは世代を超えて続いていく。

※ 発寒北商店街が面する通り。発寒商店街の一部も面している。

※スノーキャンドル